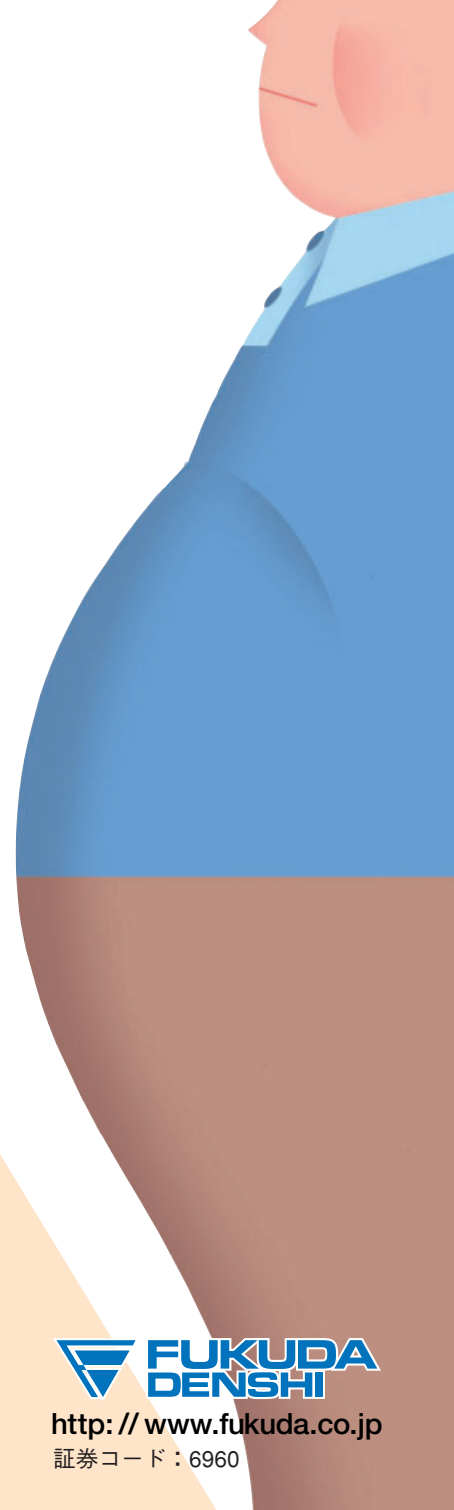


第61期中間報告書
フクダ電子株式会社
2007.09

平成19年4月1日から平成19年9月30日まで

特定健康診査をご存知ですか？



**FUKUDA
DENSHI**

<http://www.fukuda.co.jp>

証券コード：6960

ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第61期（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）の中間報告書をお届けするにあたり謹んでご報告申し上げます。

近年、国民の健康に対する関心と、良質の医療を求めニーズはますます高まっています。これは今後さらに進む少子高齢化の人口構造への不安感と、疾病構造の変化にあると考えられています。

こうした中で、日本の“もの造り”の高い潜在的能力を改めて深耕する各種国家プロジェクトが立ち上げられ、その代表的なものに「イノベーション25」、「新健康

フロンティア戦略」、「革新的医薬品医療機器創出のための5ヵ年戦略」などがあり、とくに医療機器・医薬品産業が重点分野として取り上げています。

この社会の潮流は、われわれ医療機器メーカーに課せられた責任と使命を再認識させるとともに、大いなるモチベーションの原動力となっております。

当社はこの潮流を生かし、お客様と患者様にとって「安心・安全・快適」な医療機器の開発提供を続け、業績の向上は勿論のこと、厳格な内部統制の確立、そして社会的な責務を果たす取り組みで企業価値向上を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒一層のご理解と変わらぬご支援を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

株主様への利益還元について

当社は株主の皆様への利益還元を経営の重要施策の一つとして考え、内部留保を確保しつつ継続的かつ安定的な利益還元を行うことを基本方針としており、当期の中間配当は日頃のご支援にお応えするため、1株当たり40円とさせていただきます。

1株当たりの
中間配当金

40円



代表取締役社長

福田 考太郎

連結営業の概況

1 当中間期の営業概況

当中間期におけるわが国経済は、企業収益の改善による雇用情勢の好転など、回復傾向で推移しましたが、米国のサブプライムローン問題や、原油価格の高騰による物価の上昇など、景気の先行きには不透明感が見られます。

医療機器業界においては、医療法、健康保険法の改正やDPC（入院医療費の包括支払）医療機関が拡大されるなど医療制度改革が引き続き進められたほか、医療安全の確保などへの新たな対応が求められております。

このような状況の中、当中間期の連結売上高は418億74百万円（前年同期比0.8%増）となりました。

3 通期の見通し

医療制度改革による病院経営の厳整など、医療機器業界を取り巻く環境は引き続き厳しさを増しておりますが、心突然死への意識の高まりから自動体外式除細動器（AED）の普及が進んでいるほか、在宅療養支援診療所新設に伴う在宅医療事業の拡大、予防医療事業の活性化が見込まれます。

通期の見通しにつきましては本年5月18日に発表いたしました連結売上高885億円（前年同期比0.3%増）、連結経常利益64億円（前年同期比1.6%増）、連結当期純利益33億90百万円（前年同期比1.1%増）を見込んでおります。

2 当中間期の部門別概況

生体検査装置部門 ▶▶▶

超音波画像診断装置は海外子会社の売却により大幅に減少しましたが、血圧脈波検査装置は新製品の投入により国内外共に売上高が伸長しました。

その結果、連結売上高は114億29百万円（前年同期比9.4%減）となりました。

生体情報モニター部門 ▶▶▶

海外売上は伸長しましたが、国内での落込みをカバーするには至りませんでした。

その結果、連結売上高は30億46百万円（前年同期比3.0%減）となりました。

治療装置部門 ▶▶▶

在宅レンタル事業（酸素濃縮器、睡眠時無呼吸症候群の治療器、在宅人工呼吸器）と自動体外式除細動器（AED）は何れも引き続き伸長しましたが、特定保険医療材料のペースメーカーは減少致しました。

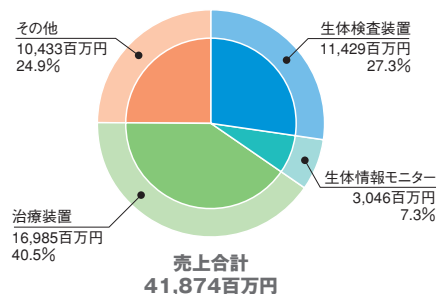
その結果、連結売上高は169億65百万円（前年同期比10.9%増）となりました。

その他部門 ▶▶▶

その他部門は、記録紙、ディスプレイ電極や上記各部門の器械装置に使用する付属品及び消耗品を主に扱っております。

連結売上高は104億33百万円（前年同期比0.5%減）となりました。

2007.09 連結中間売上高（海外売上高を含む）



特集 メタボリックシンドローム検査の

医療機関では、
メタボリックシンドローム・
生活習慣病の検査体制の
強化が求められます。

「特定健康診査・特定保健指導」の 多種多様な機器を揃えた“フクダ” さらにシェアを広げるチャンスと

医療制度改革に伴い、平成20年4月から「特定健康診査・特定保健指導」がいよいよスタート。40歳～74歳の医療保健加入者を対象に義務化され、メタボリックシンドロームを中心とした生活習慣病の検査、指導～治療が求められるようになります。これにより各医療施設では「特定健康診査・特定保健指導」に対する万全な検査体制づくりが急がれることになりました。すでにこの検査分野で使用される機器の納入実績を持つ“フクダ電子”では、さらに医療施設への信頼を構築しつつ、皆様の健康に寄与することをめざして参ります。



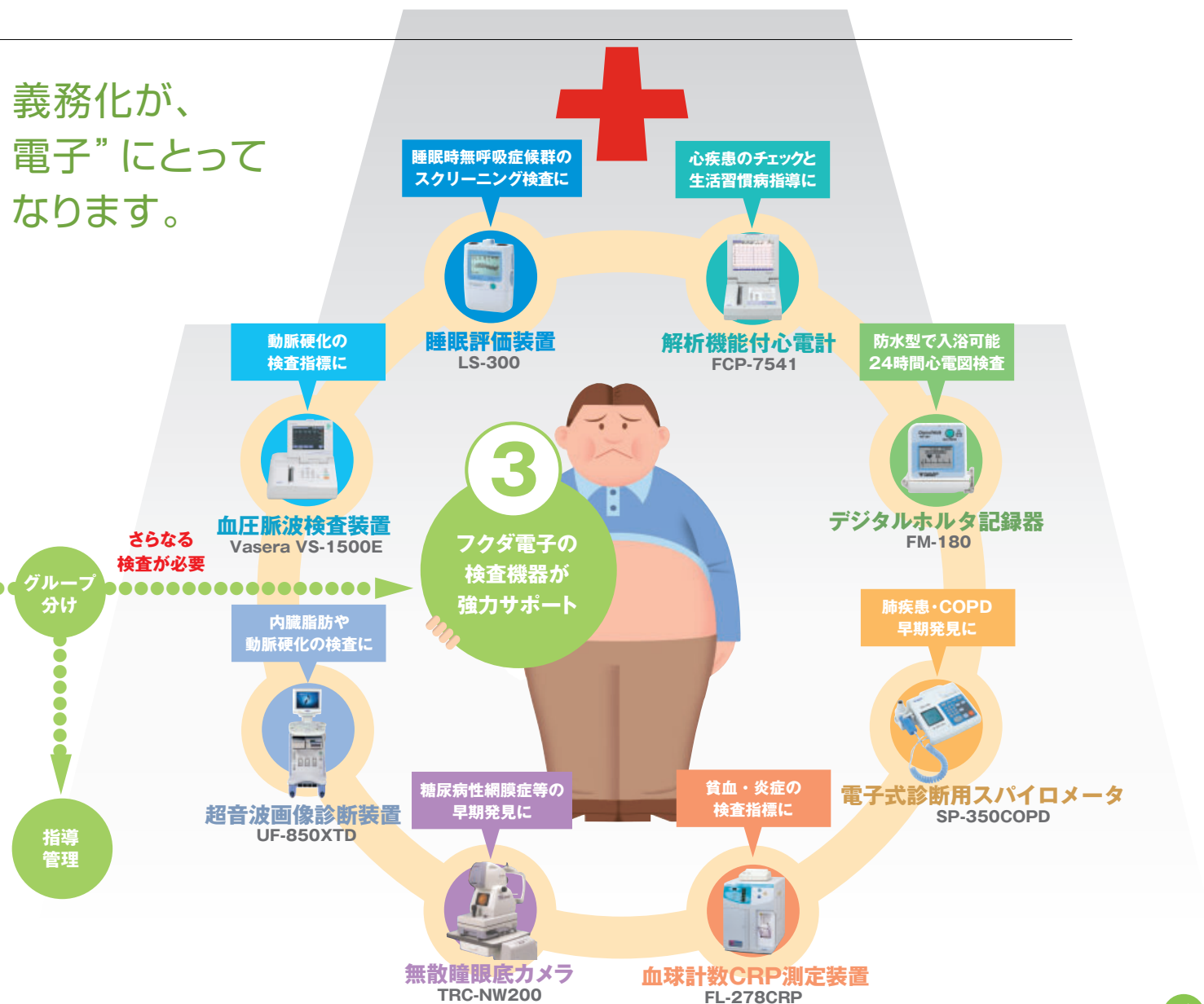
基本健康診査
一般健康診査

特定健康診査

今までの基本健康診査・一般健康診査に比べ、「特定健康診査」ではメタボリックシンドロームに関する検査項目が追加されています。それに対応する検査体制はもちろん指導～治療においても、きめ細かにサポートする多種多様な機器を取り揃え、幅広いニーズに応じて参ります。

義務化に向けて

義務化が、
“電子” にとって
なります。



製品紹介

デジタルホルタ記録器

DigitalWalk FM-160

視認性に優れた心電図波形と患者さんへのストレス軽減で、新しい検査スタイルを提案。



主な特長

24時間心電図計測を行うデジタルホルタ記録器。有機ELディスプレイを採用し、浮かび上がる心電図波形で視認性の向上を実現しました。また清潔感あふれるデザイン、装着感にこだわったコンパクトボディで、患者さんのストレスも軽減。衛生面にも配慮し、さらに衣服内携帯・腕携帯・手首携帯と3つのスタイルでの計測を可能にするなど、充実の機能性を備えています。

血圧脈波検査装置

Vasera VS-1500E

血管性疾患予防時代に応えて、血圧脈波検査と心電図検査を融合させた先進の検査装置。



主な特長

注目される生活習慣病、メタボリックシンドロームの病態把握や治療の動機づけに役立つ血圧脈波検査装置。動脈硬化を評価するCAVI・ABI検査と心電図検査をコンパクトに1台に集約することで、検査の効率化を図るとともに、省スペース化も実現しています。また心電計機能では、突然死の予防に役立つ最新のブルガダ型心電図解析プログラムを搭載しています。

酸素濃縮器

クリーンサンソ FH-22/5L

増えるシルバー層の在宅療法に
安全性と快適性をもたらす、
薄型コンパクトの一台。



主な特長

呼吸不全の治療法のひとつである酸素吸入を自宅で行うための酸素濃縮器。流量に応じて消費電力を制御する省エネタイプで、場所をとらない軽量コンパクトサイズです。またシルバー層の患者さんにも使いやすい「ユニバーサルデザイン」の採用により操作性も向上。安全・安心・快適で、自宅療養や社会復帰を可能にする在宅酸素療法に貢献しています。

両室ペーシング機能付き植込み型除細動器

アトラス+HF V-340

患者さんへの負担を軽くし、
高信頼のペーシング機能で
QOL（生活の質の向上）に貢献。



主な特長

心不全と致死的不整脈に効果的な両室ペーシング機能付き植込み型除細動器です。高出力のため高エネルギーの除細動通電が可能で、右心室サイド・左心室サイドで独立した効率の良いCRT（心臓再同期療法）ペーシングにより、患者さんのクオリティ・オブ・ライフ（生活の質の向上）の向上に貢献。またコンパクトで滑らかな形状は、患者さんの負担を軽減します。

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期 平成19年9月30日現在	前中間期 平成18年9月30日現在	前 期 平成19年3月31日現在
資産の部			
流動資産	66,201	65,147	66,784
現金及び預金	24,101	24,116	24,455
受取手形及び売掛金	21,995	21,391	24,171
有価証券	998	799	999
たな卸資産	14,777	14,612	13,126
繰延税金資産	2,636	3,165	2,745
その他	1,983	1,467	1,655
貸倒引当金	△ 291	△ 405	△ 369
固定資産	36,538	37,382	36,897
有形固定資産 ※2	18,277	17,778	17,980
建物及び構築物	4,411	4,423	4,409
機械装置及び運搬具	252	263	247
工具・器具及び備品	7,946	7,608	7,846
土地	5,653	5,446	5,461
建設仮勘定	12	36	15
無形固定資産	3,538	3,156	3,580
投資その他の資産	14,722	16,447	15,337
投資有価証券	9,613	10,961	10,825
繰延税金資産	2,257	3,106	2,126
その他	2,884	2,414	2,417
貸倒引当金	△ 32	△ 34	△ 32
資産合計	102,740	102,530	103,682

科 目	当中間期 平成19年9月30日現在	前中間期 平成18年9月30日現在	前 期 平成19年3月31日現在
負債の部			
流動負債	23,502	24,163	24,626
支払手形及び買掛金	14,416	13,383	14,917
短期借入金	3,533	3,086	3,552
未払法人税等	789	808	926
賞与引当金	1,655	1,685	1,697
役員賞与引当金	61	53	59
事業整理損失引当金	249	2,440	653
その他	2,797	2,707	2,818
固定負債	4,353	4,532	4,474
長期借入金	—	72	40
退職給付引当金	3,140	3,184	3,161
役員退職慰労引当金	299	1,208	1,213
負ののれん	1	2	1
その他	910	64	57
負債合計	27,855	28,695	29,100
純資産の部			
株主資本	72,427	70,329	71,383
資本金	4,621	4,621	4,621
資本剰余金	9,982	9,851	9,851
利益剰余金	58,589	56,788	57,843
自己株式	△ 766	△ 931	△ 932
評価・換算差額等	2,445	3,494	3,186
その他有価証券評価差額金	2,304	3,478	3,197
為替換算調整勘定	141	16	△ 11
少数株主持分	11	10	11
純資産合計	74,884	73,834	74,581
負債純資産合計	102,740	102,530	103,682

注記事項

1. 手形割引高（輸出手形割引高） 259百万円 194百万円 380百万円
- ※2. 有形固定資産の減価償却累計額及び減損損失累計額 17,262百万円 16,110百万円 16,133百万円

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売上高	41,874	41,554	88,270
売上原価	23,653	23,808	52,242
売上総利益	18,221	17,745	36,027
販売費及び一般管理費※	15,726	14,885	30,084
営業利益	2,494	2,860	5,943
営業外収益	161	206	496
受取利息	7	13	21
受取配当金	68	92	140
為替差益	—	—	29
その他	84	100	305
営業外費用	144	107	137
支払利息	44	30	66
為替差損	77	48	—
その他	22	28	70
経常利益	2,511	2,958	6,302
特別利益	627	86	1,318
特別損失	255	462	1,034
税金等調整前中間(当期)純利益	2,883	2,582	6,587
法人税、住民税及び事業税	770	892	1,476
法人税等調整額	591	157	1,755
少数株主利益	0	0	1
中間(当期)純利益	1,520	1,531	3,353

注記事項

※ 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

貸倒引当金繰入額	—	16百万円	190百万円
役員従業員給料手当等	5,406百万円	5,426百万円	10,953百万円
賞与及び賞与引当金繰入額	1,231百万円	1,271百万円	2,690百万円
役員賞与引当金繰入額	61百万円	53百万円	59百万円
役員退職慰労引当金繰入額	19百万円	20百万円	38百万円
退職給付費用	271百万円	277百万円	554百万円
減価償却費	693百万円	332百万円	777百万円

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,413	4,190	8,298
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,599	△ 3,755	△ 7,122
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 502	△ 905	△ 1,327
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	5	31
現金及び現金同等物の増減額	△ 681	△ 465	△ 120
現金及び現金同等物の期首残高	24,297	24,328	24,328
連結範囲の変更による現金及び現金同等物の増加額	△ 62	90	90
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	23,553	23,953	24,297

中間連結株主資本等変動計算書 当中間期 (平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				株主資本合 計	評価・換算差額等			少数株主 持 分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日 残高	4,621	9,851	57,843	△ 932	71,383	3,197	△ 11	3,186	11	74,581
中間連結会計期間中の変動額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当	—	—	△ 767	—	△ 767	—	—	—	—	△ 767
従業員奨励及び福利基金※	—	—	△ 8	—	△ 8	—	—	—	—	△ 8
中間純利益	—	—	1,520	—	1,520	—	—	—	—	1,520
自己株式の取得	—	—	—	△ 1	△ 1	—	—	—	—	△ 1
自己株式の処分	—	131	—	168	300	—	—	—	—	300
株主資本以外の項目の中間連 結会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△ 893	152	△ 741	0	△ 741
中間連結会計期間中の変動額合計	—	131	745	166	1,043	△ 893	152	△ 741	0	302
平成19年9月30日 残高	4,621	9,982	58,589	△ 766	72,427	2,304	141	2,445	11	74,884

注記事項

※ 中華人民共和国所在の子会社が当該国の法令に基づいて設定したものであります。

中間単体財務諸表

中間貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	平成19年9月30日現在	平成18年9月30日現在	平成19年3月31日現在
資産の部			
流動資産	47,309	47,245	47,454
固定資産	37,422	38,632	37,839
有形固定資産	14,972	15,170	14,785
無形固定資産	3,367	3,020	3,435
投資その他の資産	19,082	20,441	19,618
資産合計	84,732	85,878	85,293
負債の部			
流動負債	22,557	23,316	23,582
固定負債	1,944	2,081	2,050
負債合計	24,502	25,397	25,633
純資産の部			
株主資本	57,927	57,003	56,463
資本金	4,621	4,621	4,621
資本剰余金	9,982	9,851	9,851
利益剰余金	44,088	43,461	42,923
自己株式	△ 766	△ 931	△ 932
評価・換算差額等	2,303	3,477	3,197
その他有価証券評価差額金	2,303	3,477	3,197
純資産合計	60,230	60,480	59,660
負債純資産合計	84,732	85,878	85,293

中間損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売上高	26,644	26,303	54,064
売上原価	19,489	19,683	41,720
売上総利益	7,154	6,619	12,343
販売費及び一般管理費	6,302	5,581	11,138
営業利益又は営業損失	851	1,037	1,205
営業外収益	1,428	1,266	1,538
営業外費用	139	86	238
経常利益	2,140	2,217	2,505
特別利益	610	120	1,840
特別損失	36	491	1,228
税引前中間(当期)純利益	2,714	1,846	3,117
法人税、住民税及び事業税	10	150	10
法人税等調整額	771	834	2,017
中間(当期)純利益	1,932	861	1,090

中間株主資本等変動計算書 当中間期 (平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合 計	その他有価証券 評 価 差 額 金	評価・換算 差額等合計	
平成19年3月31日 残高	4,621	9,851	42,923	△ 932	56,463	3,197	3,197	59,660
中間会計期間中の変動額								
剰余金の配当	—	—	△ 767	—	△ 767	—	—	△ 767
中間純利益	—	—	1,932	—	1,932	—	—	1,932
自己株式の取得	—	—	—	△ 1	△ 1	—	—	△ 1
自己株式の処分	—	131	—	168	300	—	—	300
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△ 893	△ 893	△ 893
中間会計期間中の変動額合計	—	131	1,165	166	1,463	△ 893	△ 893	569
平成19年9月30日 残高	4,621	9,982	44,088	△ 766	57,927	2,303	2,303	60,230

フクダグループの取り組み

地域密着のセミナーで
医療現場全体のレベルアップをサポートしています。

フクダグループでは、全国の販売会社と協力しながら、各種講習会・セミナーを実施しています。例えば、医療従事者を対象とした「心電図・超音波講習会」、医療機器の保守・点検を担当されている方に向けた「メンテナンスに関するセミナー」などが挙げられます。このように医療現場との絆を深めながら、医療従事者のレベルアップのお手伝いをしています。

セミナー案内チラシ▶



心機図検査装置

MES-1000

データの二次利用

- 1) 教育用として利用
スピーカー、ヘッドホンなどを利用することにより、教育目的で使用することも出来ます。
- 2) プレゼンテーション
研究発表などプレゼンテーションの場でも活用していただけるよう心音再生やコメント挿入が可能です。



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
定時株主総会	毎年6月開催		住友信託銀行株式会社 証券代行部
基準日	定時株主総会 毎年3月31日	(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417
	期末配当 毎年3月31日		(其他のご照会) ☎0120-176-417
	中間配当 毎年9月30日	(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
	そのほか、必要ある場合は、あらかじめ公告して定めた日	同取次所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
株主名簿管理人	大阪府中央区北浜四丁目5番33号	公告方法	当社ホームページに掲載する。
	住友信託銀行株式会社		< http://www.fukuda.co.jp/ >
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号	上場金融商品取引所	ジャスダック証券取引所
	住友信託銀行株式会社 証券代行部		